

(別添3)

【静岡県焼津市】
校務DX計画

教育委員会及び学校が教育DXを推進する際に取り組むことが望ましい項目を実現するため、教育委員会及び学校全体で下記の項目について改善を推進していく。

1 FAX・押印等の制度・慣行の見直し

校務DX自己点検の結果から、本市では9割以上の学校で業務上FAXを使用し、8割以上の学校で押印及び署名が必要な書類がある状況となっている。

- ・FAXを利用する状況を再確認し、教育ネットワークの不具合時などFAXの方が電子メール等より効率的な場合を除きFAXを使用しないよう、教育委員会及び学校に関する制度や慣行の見直しを行う。
- ・FAXや押印及び書名を求めている関係機関及び事業者等に対して、制度や慣行の見直しを図るよう働きかける。

2 校務支援システムへの名簿情報の不必要な手入力作業の一掃

本市の校務支援システムは、名簿の基本情報のみCSV形式で作成したデータを取り込むことが可能である。その他情報はCSVデータからのコピーペーストで対応可能であるが、一括取込が出来るようソフトウェア業者に働きかける。

3 クラウド環境を活用した校務DXの積極的な推進

校務DX自己点検の結果から、本市では「学校内での連絡」のデジタル化は進んでいるが、「教員と保護者間の連絡」「教員と児童生徒間の連絡」のデジタル化が進んでいない状況となっている。

- ・児童生徒の欠席等連絡、学校から保護者への連絡配信などに汎用のクラウドサービスを活用する
- ・活用が進んでいない学校の現状と課題を把握し、活用が進むよう支援する

4 次世代の校務デジタル化に向けた検討

本市では「校務系」と「学習系」のネットワークを物理的に分離し、かつ、「校務系」は職員室からのみアクセス可能なネットワークを構築している。インターネットから児童生徒の個人情報を分離しているためセキュリティは高く確保されているが、教職員1人1人の事情に合わせた柔軟な働き方が困難な状態となっている。

- ・国で行っている次世代の校務デジタル化実証事業の成果を参考にしながら、セキュリティを確保しつつ、ロケーションフリーでの校務処理が行える環境の実現を検討していく。